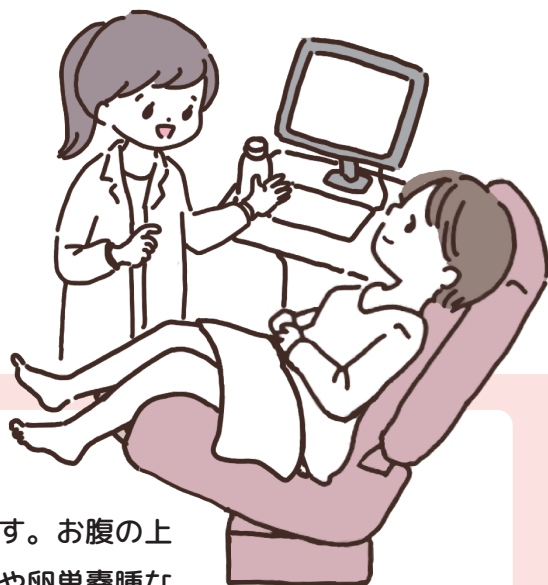


婦人科の検査はいつも「子宮頸部細胞診だけ」なんてことはありませんか？

婦人科疾患の早期発見に欠かせない 経膈超音波検査

オプション検査で受診いただけます



どんな検査？

細い専用の器具を膈に挿入し、超音波で内部の画像を映し出します。お腹の上から検査するよりも、より鮮明な画像が得られるため、子宮筋腫や卵巣嚢腫などの病気を発見しやすくなります。痛みはほとんどなく、短時間で終わります。

検査で分かること

子宮の大きさや形状、向き

子宮内膜の厚さ、形状

不正出血の原因

卵巣の大きさや形状

筋腫やポリープの有無

検査で分かる主な疾患

子宮筋腫

卵巣腫瘍

子宮腺筋症

子宮内膜ポリープ（排卵前の時期のみ）

ダグラス窩貯留液（腹水）



教えて！経膈超音波検査

Q. どのくらいの頻度で受ければいいですか？

A. 自覚症状の有無に関わらず 20 歳以上の方は年に 1 度の受診をおすすめしています。

＼こんな症状ありませんか／

月経痛がひどい

月経の出血が多い（過多月経）

不正出血がある

多くの婦人科疾患は初期症状が乏しいため自覚症状がない場合でも検査を受けることが重要です。

 **マイヘルスクリニック**
神 田 院

ご予約・日程変更（音声ガイダンス①番）

TEL:0120-260-709

月～金曜日 9:00～16:00 / 土曜日 9:00～12:00

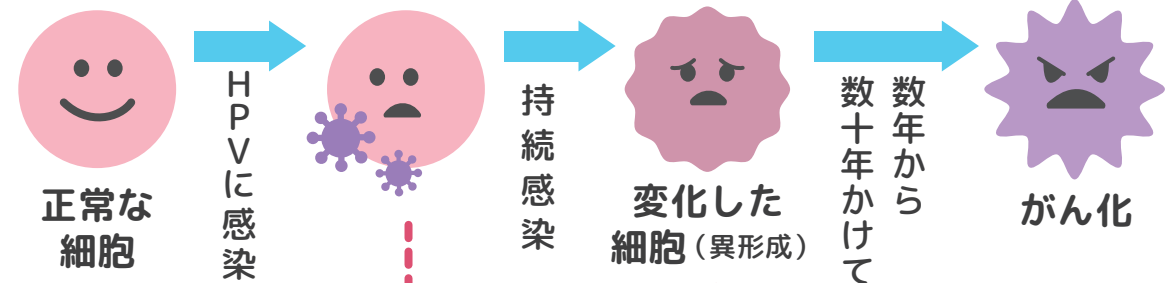
子宮頸がんの検査「子宮頸部細胞診」と「HPV 検査」

子宮頸がんの検査には「**子宮頸部細胞診**」と「**HPV 検査**」の2種類があります。どちらも子宮頸がんを調べる検査ですがそれぞれ検査する対象が異なります。

そもそも子宮頸がんの原因は？

子宮頸がんの主な原因は、ヒトパピローマウイルス（HPV）感染です。HPVは性交渉で感染するウイルスのため、性交渉の経験がない場合は子宮頸がんになる可能性はかなり低いと言えますがゼロではありません。HPVは多くの女性が生涯のうちに感染する非常に一般的なウイルスです。

子宮頸がんが発生するメカニズム



HPV検査

HPVウイルスの感染の有無を調べる

子宮の入り口（頸部）をブラシでこすり細胞を採取し HPV（ヒトパピローマウイルス）の感染の有無を調べます。

HPVにはたくさんの種類がありますがその中でも HPV 検査で調べるのは子宮頸がんとの関係が深い“高リスク型 HPV”です。

・オプション検査で受診いただけます

子宮頸部細胞診

がんに進みそうな細胞の有無を調べる

子宮の入り口（頸部）をブラシでこすり採取した細胞を顕微鏡で調べ、がん細胞など異常な細胞がないか調べる検査です。

がんになる前の細胞（前がん病変）もわかります。

・レディースドックまたはオプション検査で受診いただけます

※注意：検査にあたり膣に器具を挿入するため性交渉経験がない方は特に痛みが伴う場合があります

子宮頸部細胞診と HPV 検査を併用することでより確実に病変を見つけることが可能です
子宮頸部細胞診、HPV 検査は 20 歳以上のすべての女性に定期的に受けていただきたい検査です